

## 事業所における自己評価結果（公表） 児童発達支援

公表：令和7年2月1日

事業所名 こどもいろたかす

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		身支度、机上活動、集団活動の部屋を分けている	
	②	職員の配置数は適切である	7		利用人数に合わせた職員の配置ができています	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7		部屋の扉に何をやる部屋かを視覚で理解できるようにイラストや文字を用いて看板を提示している	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7		毎日清掃チェックリストを確認しながら清掃作業を行っている	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7		毎月の職員会議で業務の報告、振り返りを行い改善策を考えている	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			送迎時やおたより等で知らせていく
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		毎年行い、結果を公表している	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7		集計して改善策を考え、実施している	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		専門的知識を身に付けるために受講している	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7		モニタリングや家族連携の時に保護者と話し合いを行い、ニーズを踏まえて計画書を作成している	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7			遠城寺式の乳幼児分析的発達検査表を使用していく
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7		相談支援事業所との連携やケース会議等を行い、児童に必要な支援を設定している	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7		専門的支援計画書を作成し、目標を絞って支援ができています	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		月に1回イベント会議を行って意見を出し合っている	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		集団活動の担当を決めて、内容が偏らないようにしている	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7		1人1人の特性に合わせて個別、集団活動の中でできる支援を考えている	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		朝礼にて打ち合わせを行っている	

	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		終礼にて話し合い、振り返りを行っている	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		連絡帳やケア記録に特記事項を記入し、必要時は職員間で話し合っている	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7		現状を伝えて保護者の意向と擦り合わせを行っている	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		管理者や児発管が参加するようにしている	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7		情報共有をするなど連携を取っている	
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	7			現在利用者なし
	㉔	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7			現在利用者なし
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		お互いに様子を伝えあつて連携を取っている	
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		お互いに様子を伝えあつて連携を取っている	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7		適時行っている	
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	6	1		幼稚園等と併用している児童は機会があるが、事業所のみ利用の児童には今後交流する機会を作っていく
	㉙	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7			まだないが、今後参加していく
	㊱	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		送迎時や家庭連携等で児童の様子を保護者に伝えている	
	㊲	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	7		保護者から相談があった時には助言している	
保護者への説明責任等	㊳	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		契約時に説明を行い、疑問点はないか再度確認を行うようにしている	
	㊴	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7		計画書内容の変更時に保護者に説明をして、サインをもらうようにしている	
	㊵	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		保護者から相談があった時には助言している	
	㊶	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7			今年度は開催がなかったため、イベントを計画していく
	㊷	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7		できるだけ早く返答が出来るように対応している	
	㊸	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		毎月おたよりを配布している	

	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	7		個人名の乗っている書類は鍵付きの書庫で管理している	
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		メモを渡したり、端的に伝えるようにしている	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7			事業所に招待はできていないが、戸外ですれ違う事があれば積極的に挨拶等の交流をしていく
非常時等の対応	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7		訓練時に連絡帳やおたより等で内容を知らせている	
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		毎月あらゆる災害を想定して訓練を行っている	
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7		入所時にアセスメントシートに記入してもらい、それ以降に関しては随時連絡をもらうようにしている	
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7			現在医師の指示書を必要とする児童はいない
	④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		毎週1回作成し、全体会議等で共有している	
	④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		毎月会議を実施している	
	④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7		事前に保護者に説明を行い、計画書に記載をしている	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。